水道情報活用システム導入支援事業（名張市上下水道部）

- 令和7年より、監視制御システム（複数のシステム又はアプリケーションを対象とする連携）を導入する。
- 当該事業を通じて、浄水場運転監視業務が効率化されるほか、水運用システムなどのデータの利活用を図る。

事業概要

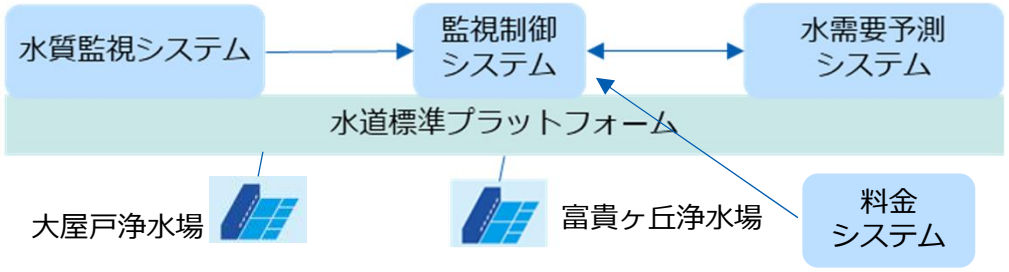
- 事業名　：富貴ヶ丘浄水場ほか中央監視制御設備更新工事
- 事業期間：令和7年～令和12年
- 実施個所：名張市下比奈知ほか地内
- 事業概要：浄水場運転監視制御設備の更新時に、水運用システムなどと連携させて薬品注入、ポンプ運転を自動制御することにより、業務の省力化を図る。

導入により目指す業務効率化

- 現在、取水及び送水ポンプは流量を手動で設定し、運用している。また、取水停止時には、中央管理室から手動で各設備を停止している。
  このため、急な需要の変動等の際に対応が遅れることがある。
- 今回、水需要予測及び、水質監視システムと連携することにより、急な需要の変動や、水質異常時に自動で取水停止等の制御ができる。
- 料金システムと監視制御システムのデータ連携を行い、有収率などの「見える化」を推進する。
- 浄水場と将来的に下水処理場で監視システム連携を図ることで、給水量の減少に合わせて、常駐監視している人員削減や災害情報の情報共有を目指す。

具体的な連携の内容

- 最新技術や他システムとの情報連携による業務の効率化、水需要予測、水質監視データ、水道料金システムの水使用量データによる、先進的な浄水場の自動運転監視業務が実現できる。



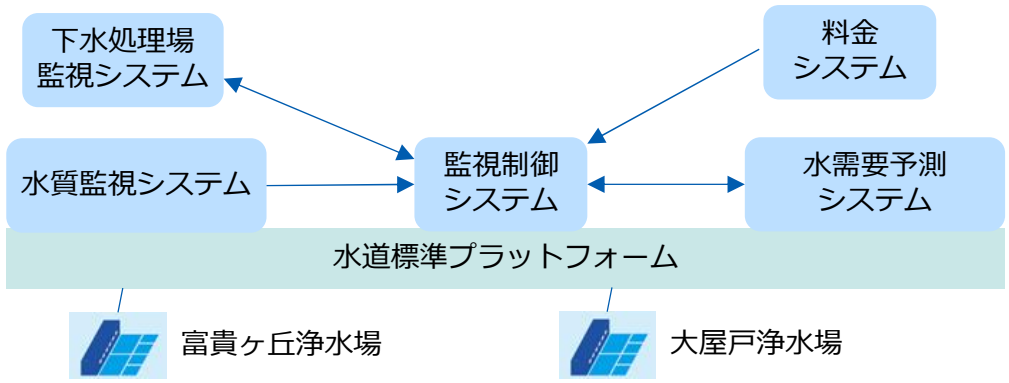
データの利活用・付加効果

データの利活用

- 最新技術や他システムとの情報連携による業務の効率化、水需要予測、水質監視データ、水道料金システムの水使用量データによる、先進的な浄水場の自動運転監視業務が実現できる。
- 市内2浄水場のクラウドデータを連携し、将来的には下水処理場での監視を可能にすることで、両施設の運用効率と協調運用が向上する。また、災害情報の共有とリアルタイム監視により迅速な異常対応が可能となり、不明水の予測分析を通じた最適化も実現できる。

付加効果

- 水運用システムを導入することで、水・配水を総合的に運転計画を立案することができるため、水道施設の運転コスト削減、省エネルギー化を図ることができる。
- オンプレミスからクラウドに基盤を変更し、データを遠隔地に保管することで重要なデータを消失するリスクが低くなり、災害後の事業継続や復旧が容易となる。また、水道標準プラットフォームを利用している事業者と施設や設備、機器などデータを共有し、効率的に災害支援を受けることが可能となる。



問合せ先

名張市上下水道部　浄水室
TEL:0595-63-4117/　Email: josui@city.nabari.lg.jp